

(別紙)

評価細目の第三者評価結果

評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

Ⅰ-1 理念・基本方針

		第三者評価結果
Ⅰ-1-(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		
①	Ⅰ-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	㊐・b・c
良い点／工夫されている点： ・学園の理念を、玄関に大きく掲示するとともに、事務室には、併せて職員としてあるべき姿を明記した額が掲示されている。また、ホームページに掲載するほか、年に3回発行する学園通信「けいこう」にも掲載している。 ・学園の理念は、平成12年に方針・目標がわかりやすく端的に表現されていることを市政記者クラブから表彰されており、理念とともに職員としてあるべき姿が明記されているのが特徴である。 ・基本方針は、入園時に配布する「重要事項説明書」及び保護者向け「学園生活のしおり」に掲載している。 ・普段あたりまえのこととして過ぎてしまいがちな子どもたちの小さな変化の意味をとらえ、それを自分だけでなく、みんなで喜び合うことを療育の基本にするという願いを持った理念であることを、職員や保護者に折にふれ伝えており、わが子ばかりではなく、他の子どもの小さな成長を共に喜ぶ姿が見られている。		
改善できる点／改善方法：		

Ⅰ-2 経営状況の把握

		第三者評価結果
Ⅰ-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
②	Ⅰ-2-(1)-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	㊐・b・c
良い点／工夫されている点： ・岐阜市の管理職は毎年度「組織の重点目標」を作成することとなっており、恵光学園も、「岐阜市行財政改革プラン」、「岐阜市子ども・子育て支援プラン」及び「第5次障害者計画」に基づき、課の組織目標（具体的な目標指標）を設定している。また目標設定にあたっては、国の基準通知、各種ガイドライン等を理解するとともに、岐阜市の各種計画策定に伴う市民のニーズ調査を勘案している。		

・福祉部内関係課によるプロジェクトチームを編成して「児童発達支援センターのあり方」について検討する会議を実施している。		
改善できる点／改善方法：		
③	I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	@・b・c
良い点／工夫されている点： ・公立施設であるため、市民のニーズに合った質の高いサービスが提供できるよう努めている。 ・市の予算・決算は議会の議決を必要とし、予算編成、決算監査、定期監査等はずべて福祉部内はもちろんのこと、市全体で共有される。また、今年度は庁内の関係課員によるワーキングチームで、直営施設として市のサービス全体における役割を検討している。 ・施設内では、管理職が全職員との面談を実施（年2回）し、一人ひとりの職員と意見交換を行うとともに、月に1回のリーダー会議及び、毎週開催する職員会議で、課題検討及び業務改善を迅速に行っている。		
改善できる点／改善方法：		

I-3 事業計画の策定

		第三者評価結果
I-3-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		
④	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	@・b・c
良い点／工夫されている点： ・岐阜市の各種計画にビジョン及び数値目標等を明確化している。 「ぎふし未来地図」 「岐阜市子ども・子育て支援プラン」（2020～2024） *基本目標1「子ども・若者自らが育つ力」 （5-1）障がいのある子どもの療育の推進 「第5次岐阜市障害者計画」（2023～2027） *施策4「療育の充実」 「第7期岐阜市障害福祉計画・第3期岐阜市障害児福祉計画」 ・計画は、その都度ニーズ調査を行い、課題に解決・改善のための、数値目標を設定している。また、担当課が進捗状況を管理し、定期的な会議で実績を確認し、必要に応じ目標数値を修正している。なお、組織の重点目標は、上記市の計画に基づき、毎年度設定している。		

改善できる点／改善方法：		
5	I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	㊤・b・c
良い点／工夫されている点： ・前述した各種計画を踏まえ、組織の重点目標、具体的指標を設定し、事業計画をたてている。 【令和6年度の組織の重点項目】 - 児童発達支援センターの在り方の検討 - ICT環境の整備による安全管理体制の強化と業務効率化 - 児童発達支援センターの機能強化による地域支援体制の充実 - 法令を遵守した適切なサービスの提供 - 質の高い発達支援の提供の推進 - 安全計画に基づいた安心・安全な療育サービスの提供 - 家族支援の充実 - インクルージョンの充実、保育所等の子育て支援機関等への助言・支援 - 子どもと家族に寄り添った相談支援の提供 - 近隣住民、他の関係機関・事業所等との良好な関係維持と連携強化 - 業務継続に向けた感染症や災害への対応力の取り組み強化 - 実習生、ボランティア受け入れによる人材育成、地域啓発		
改善できる点／改善方法：		
I-3-(2) 事業計画が適切に策定されている。		
6	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直し組織的に行われ、職員が理解している。	㊤・b・c
良い点／工夫されている点： ・「組織の重点目標」は9月末、12月末までの達成基準を定め、定期的に評価を行っている。 ・年に2回職員と面談を行い担当業務について進捗状況を確認し、評価を行う。業務に遅延がある場合は、アドバイスをしたり、他者に協力を求めるなどの対策を講じている。 ・組織の重点目標、前年度の取り組みの反省点を踏まえ、次年度に向け全職員の会議で業務を見直し、職員が分担して「恵光学園職員マニュアル」「学園生活のしおり（年間行事予定含む）」「学園運営概要（恵光学園運営計画）」を作成している。併せて職員研修計画、消防計画、保健管理計画等も盛り込んでいる。また、毎週の職員会議では「職員マニュアル」の読み合わせを行い、職員間で定期的に確認し合っている。		
改善できる点／改善方法：		
7	I-3-(2)-② 事業計画は、利用者等に周知され、理解を促している。	㊤・b・c

良い点／工夫されている点： ・「学園生活のしおり」を毎年改定し配布している。 ・年度初めの説明会や保護者学習会、親の会を利用し、周知に努めている。 ・外国籍の保護者には、ルビを打ったり、通訳を依頼したりし、個別に説明するなど の配慮を行っている。 ・あらかじめ1年間の予定を保護者に周知し、予定が立てやすいようにする。週案や 別途渡すおたよりで詳しく案内するなど、行事に興味を持ってもらえるよう促している。
改善できる点／改善方法：

I-4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

		第三者評価結果
I-4-(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		
8	I-4-(1)-① 福祉サービスの質の向上に向けた取組が組織的 に行われ、機能している。	㊤・b・c
良い点／工夫されている点： ・54名の個別支援計画の作成にあたっては、前期個別支援計画の作成（Plan）、実 施（Do）、評価（Check）、実施（Action）のサイクルで実施し、後期個別支援計 画（10月）を作成し、同サイクルで次年度へ引き継いでいる。 ・個別支援計画作成にあたっては、児童発達支援管理責任者及びクラス担任が会議 で 1人1人の園児についての育ちを共有し、その内容を踏まえて作成し、園内決裁後 保護者と面談を行い確認してもらっている。 ・毎年1回児童発達支援ガイドラインに基づく自己評価を実施している。また、第 三 者評価は3年ごとに受審している。		
改善できる点／改善方法：		
9	I-4-(1)-② 評価結果にもとづき組織として取組むべき課題 を明確にし、計画的な改善策を実施している。	㊤・b・c
良い点／工夫されている点： ・課題は月に1回のリーダー会議で検討し、会議録を作成し、全職員に回覧すると ともに、職員会議等で報告し更に議論している。必要に応じて各種委員会、リーダ ー会議等に差し戻して、掘り下げて検討をする。決定事項については、迅速にマニ ュアルの変更を行っている。 ・職員会も会議録を作成し、参加できなかった職員に回覧し周知を図っている。 ・年末には、フロアごとに全職員が当該年度全体の事業活動について振り返り、次		

年 度の課題を話し合い文書にまとめ、リーダー会議で検討した上で職員会で議論される。 ・年度末には、データをまとめ振り返り（Check）、1 年間の事業報告書「あゆみ」を作成し、次年度の事業が改善される（Plan、Do）。
改善できる点／改善方法：

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果
Ⅱ-1-(1) 管理者の責任が明確にされている。		
10	Ⅱ-1-(1)-① 管理者は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	㊤・b・c
良い点／工夫されている点： ・学園の理念は、玄関、事務室に掲載されている。園長は毎年組織の重点目標を設定し、職員と面談をして取り組み方針について共有し、業務を進めている。 ・毎年作成する「恵光学園職員用マニュアル」に、職務分掌と異常事案（リスク）個別票をまとめ、対処責任順位等管理者の役割と責任を定めている。		
改善できる点／改善方法：		
11	Ⅱ-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	㊤・b・c
良い点／工夫されている点： ・遵守すべき主な法律として、児童福祉法、同施行規則、同法に基づく指定通所支援事業等の人員、設備及び運営に関する基準、通所支援に要する費用の額の算定に関する基準等の遵守に努めている。 ・安全計画や事業継続計画、避難確保計画などの緊急時等に対応するための各計画を整備するとともに、学校現場や保育所等の感染防止対策マニュアルや、保育所におけるアレルギー対応ガイドラインなど、国や市の示す方針を参考に学園のマニュアルの見直しを行っている。		
改善できる点／改善方法：		

Ⅱ-1-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。		
12	Ⅱ-1-(2)-① 福祉サービスの質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	㊸・b・c
良い点／工夫されている点： ・管理者は、日常的に療育の現場（通園バス、給食等を含む）へ入り、現場の課題を把握できるようにしている。 ・給食調理員、バス運転手等直接療育を担当していない職員とも連携を密にして、衛生管理・安全管理について確認し合うよう努めている。 ・児童発達支援ガイドラインのアンケート・自己評価を行い、評価・分析・課題把握に努めている。 ・児童発達支援管理責任者は各種委員会に所属し、状況の把握を図るとともに、より良い療育の提供のため、日常的な状況をきめ細かく管理者に報告している。 ・学園の職場研修計画の下、職場研修、外部講師による研修、ケース検討会を定期的実施し、職員の質の向上に取り組んでいる。また、働きやすい職場づくりのため「ワーク・ライフバランスの推進」について、事務室に掲示している。 改善できる点／改善方法：		
13	Ⅱ-1-(2)-② 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	㊸・b・c
良い点／工夫されている点： ・日々の療育での問題や成果を報告しやすい職場風土をつくるとともに、全職員との面談を実施し、個々の職員に期待すべきことを伝えたり、ワークライフバランスについて職員の状況把握に努めている。 ・施設の老朽化に対応できるよう施設改修を担当課と調整したり、専門性の高いサービス提供のため、来年度の人員体制（増員、キャリアアップのための人事異動）について、人事課及び庁内関係各課と連携・調整を図っている。 改善できる点／改善方法：		

Ⅱ-2 福祉人材の確保・育成

		第三者評価結果
Ⅱ-2-(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		
14	Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	㊸・b・c
良い点／工夫されている点： ・公立施設であるため、職員定数、人員配置、人件費等については人事課が決定している。現在、福祉指導員及び保育士の専門職が配置されている。		

・令和４年度～第二・第三恵光の指定管理及び、公立保育所の民営化に伴い、恵光学園の公立施設としての役割を整理するとともに、一般の集団保育と療育の両方を経験するなど、若い職員のキャリアアップを含めた人員計画を、福祉政策課及び子ども保育課と定めている。 ・全庁的にワークダイバーシティに取り組んでおり、非正規職員についても、安定した勤務体制、多様で柔軟な働き方に取り組んでいる。		
改善できる点／改善方法：		
15	Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	㊟・b・c
良い点／工夫されている点： ・職員採用、配置、異動、昇進、昇格は人事課が行う。岐阜市人材戦略プランにおいて、職員の基本理念を「志向は市民に 意識は挑戦に 行動はスピーディに」とし、３つの目指す具体的な職員像を示している。 ・また岐阜市では、岐阜市職員人事考課要綱に基づき、すべての正規職員に対し目標管理による業績評価が導入されている。この制度の特徴として、考課項目の明確化、客観的事実に基づいた人事考課、面談を通じた人材育成、挑戦加点主義が挙げられる。 ・学園においてもこの制度に基づき、職員の担当する業務の進捗状況を業績と能力に分類評価し、個別面談で、職員の業務に対する思いなどを傾聴しながら、職種・年齢に応じ期待する役割を伝えている。		
改善できる点／改善方法：		
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。		
16	Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	㊟・b・c
良い点／工夫されている点： ・職員の超過勤務は事前に届け出ることとなっており、超過勤務時間、業務内容は毎日管理者が把握している。目標管理の面談の際は、本人の意向で、子どもや両親の年齢、健康状況も把握するようにしている。 ・有給休暇については可能な範囲で、体調不良や家族の病気等によるものカリフレッシュのための休暇であるか把握するように努めている。 ・市の職員厚生課内健康相談室に悩みごとの相談窓口、行政課にハラスメント通報システムがあることを職員に周知している。 ・定期的に職員厚生課が実施するストレスチェックの結果は管理職にフィードバックされており、その状況を確認している。特に非正規職員が、意見を述べやすい職場風土づくりに努めている。		
改善できる点／改善方法：		
Ⅱ-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。		
17	Ⅱ-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている	㊟・b・c

	る。	
良い点／工夫されている点： ・岐阜市職員人事考課要綱に基づき、全ての正規職員は目標管理による業績評価が導入されている。この制度を利用して、職員の評価及び指導を行っている。 ・評価は、担当する業務の進捗状況を確認し業績と能力に分けて行われ、目標は年度当初の面談で、それぞれの職員の役職や役割などに応じて設定している。 ・年度当初に担当業務について確認し、9月末・12月末までの達成基準を定め、10月・12月の面談で目標達成度の確認を行っている。		
改善できる点／改善方法：		
18	Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	㊤・b・c
良い点／工夫されている点： ・「学園生活のしおり」「学園運営概要」に学園の理念と職員のあるべき姿がうたわれている。 ・児童発達支援係のすべての職員は社会福祉士、保育士、児童指導員任用資格等のいずれかの資格を有している。専門性のさらなる向上のため、計画的に相談支援専門員、児童発達支援管理責任者等の専門研修が受講（更新）できるよう計画している。 ・また、毎年度研修計画が作成され、外部研修、職員による職場研修、講師を招いての職場研修、公開療育等を行っている。 ・職場研修においては、終了後のアンケートをとり、研修の効果を確認している。		
改善できる点／改善方法：		
19	Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	㊤・b・c
良い点／工夫されている点： ・全職員の資格一覧を作成するとともに、事業所として必要な有資格者と更新研修受講時期について一覧表を作成し管理している。 ・新任職員、新規採用職員はベテランの職員と同じクラスに配置し、個別的なOJTが行える体制を整備している。 ・予算の範囲内で年間研修計画を作成し、正規・非正規職員全員が順番に研修に出席している。研修に参加した職員は、その内容について職員会議で全職員に発表するとともに、市外の研修の際は復命書を作成して職員間で回覧される。 ・外部研修の情報は回覧し、参加を推奨している。なお、職員が研修のため職場を離れる時は、そのクラスに代わりの職員が応援に入るよう配慮し、自己研鑽しやすい体制を作っている。		
改善できる点／改善方法：		
Ⅱ-2-(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われ		

ている。		
20	Ⅱ-2-(4)-① 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の教育・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	㊟・b・c
良い点／工夫されている点： ・発達障がい・知的障がい等の理解啓発のため、実習受け入れは大切な機会ととらえ、実習生のしおりを作成し、実習に入る前に管理者と実習生担当職員が学園の概要と心得について説明している。 ・保育士実習はクラス保育を中心に行うが、社会福祉士は福祉事務所全体（各課）で実習をしており、学園では児童発達支援管理責任者や相談支援専門員、管理者が担当している。 ・実習生受け入れ前には、検便を行うとともに、実習中に知り得た秘密を漏らさないことについて誓約書を受け取る。また、万が一の事故の際の対応方法等については学校と連携を図っている。 ・なお、社会福祉士を実習担当者として配置し、実習指導者の研修を受講している。また、実習生がクラスに入るときは、事前に保護者に知らせ、理解を得るようにしている。		
改善できる点／改善方法：		

Ⅱ-3 運営の透明性の確保

		第三者評価結果
Ⅱ-3-(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		
21	Ⅱ-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	㊟・b・c
良い点／工夫されている点： ・ホームページやパンフレット、通信（けいこう）等で理念、基本方針、福祉サービスの内容等を公表している。 ・公立施設であるため、予算は市の財政課の査定を受け、市議会の承認を得て執行している。決算は議会及び、監査委員の監査を受けている。 ・3年ごとに第三者評価を受審し、結果について園内に掲示している。自己評価等の結果は毎年ホームページに掲載している。		
改善できる点／改善方法：		
22	Ⅱ-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	㊟・b・c

良い点／工夫されている点： ・事務・経理等については、市の会計規則、契約規則等に則った事務処理を行っている。
改善できる点／改善方法：

Ⅱ-4 地域との交流、地域貢献

		第三者評価結果
Ⅱ-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。		
23	Ⅱ-4-(1)-① 利用者と地域との交流を広げるための取組を行っている。	㊐・b・c
良い点／工夫されている点： ・学園生活のしおりの②園外活動の項目で、「社会資源を利用した園外での活動（外食、買物、電車・バスに乗る、公園の遊具で遊ぶ、山に登るなど）を行う。」と明記し、近隣地域の社会資源を利用して生活体験を広げ、公共の場所でのルールやマナーを学ぶ機会を設けている。 ・年度初めに、岐阜市発行の子育てガイドブックを保護者全員に配布し、社会資源を紹介している。また、園児の居住地の保健師や、必要に応じ子ども相談センターやエール岐阜・幼稚園・保育所等とも連携をはかり、保護者支援に努めている。 ・近隣の会社や団体からの寄附をきっかけに、親交を深めている。 改善できる点／改善方法：		
24	Ⅱ-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	㊐・b・c
良い点／工夫されている点： ・職員用マニュアルに、受け入れについて明記するとともに、事前説明を十分に行って受け入れている。 改善できる点／改善方法：		
Ⅱ-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。		
25	Ⅱ-4-(2)-① 福祉施設・事業所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	㊐・b・c

良い点／工夫されている点： ・市障がい福祉課が作成した「岐阜市障害児通所支援事業所一覧」「障がい者の明日のために」等、保護者の相談に応じられるよう各種冊子を施設に備え、職員・保護者が見やすい場所に設置している。 ・学園の相談支援専門員は「岐阜市障害者総合支援協議会」に参画し、関係機関との連携を図るほか、状況に応じて、個々の園児に必要な関係機関と連携・調整を図り、ケース会議等も行っている。 ・就園・就学に当たっては、円滑な移行のため事前に受け入れ施設（学校）との連携を密に行い、就園・就学後も、職員が施設（学校）を訪問するなどのアフターケアを行っている。		
改善できる点／改善方法：		
Ⅱ-4-(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。		
26	Ⅱ-4-(3)-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	㊤・b・c
良い点／工夫されている点： ・岐阜市立施設として、地域の障がい等に関する相談に応じる「障害児等療育支援事業」を実施するほか、児童発達支援センターの機能強化事業を実施し、令和3年4月～子育てに悩みや不安のある地域の親子の外来相談（きらきら教室）を実施している。 ・R5年には市内障害児通所支援事業所にアンケートを実施し、児童発達支援センターに期待する役割について意見を集め、恵光学園の今後のあり方検討の中で計画案へ反映させた。		
改善できる点／改善方法：		
27	Ⅱ-4-(3)-② 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	㊤・b・c
良い点／工夫されている点： ・「第5次岐阜市障害者計画」「第7期岐阜市障害福祉計画・第3期岐阜市障害児福祉計画」において把握したニーズに基づいた事業計画が策定されている。 ・学園の相談支援専門員が「岐阜市障害者総合支援協議会専門部会」に所属し、関係機関との連携を図っている。岐阜市として、地域の障がい等に関する相談に応じる「障害児等療育支援事業」を実施するほか、児童発達支援センターの機能強化事業を実施し、令和3年4月～子育てに悩みや不安のある親子の外来相談（きらきら教室）を実施している。 ・「岐阜市地域防災計画」においては、福祉避難所には位置づけられていないが、毛布や備蓄品の準備もあり、災害の状況に応じて避難者の受け入れは可能である。		
改善できる点／改善方法：		

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

		第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		
28	Ⅲ-1-(1)-① 利用者を尊重した福祉サービスについて共通の理解をもつための取組を行っている。	㊤・b・c
良い点／工夫されている点： ・毎年職員倫理条例等に基づき、毎年公務員倫理の職場研修を実施している。 ・恵光学園職員用マニュアル（1人権に関する事項、2職員の挨拶、礼儀に関するこ と）、「学園の療育を進めるために」において、利用者の尊重に関する方針を明記し療育を進めている。 ・子どもの権利委員会を学園内に設置し、療育のあり方について自己チェック及び他者チェックを行っている。 ・虐待防止については、職員用マニュアルの 異常事案（リスク）個票（児童虐待、障害福祉従事者等による障害者虐待）で明記し、不適切な事態が発生した場合に備えている。 ・職員用マニュアルは職員会議で読み合わせを行い、自身の行動の振り返りを行っている。 改善できる点／改善方法：		
29	Ⅲ-1-(1)-② 利用者のプライバシー保護等の権利擁護に配慮した福祉サービス提供が行われている。	㊤・b・c
良い点／工夫されている点： ・「職員用マニュアル」ではプライバシーの保護について、「1人権に関する事項」で 明記している。 ・着替え時に衝立を使用するなど、プライバシー保護に配慮している。トイレのプライバシーについては、2～3人の排泄支援を同時に行う必要性から、ドア等は取り付けていないが、同性介助を基本とし、女児のトイレ使用時は、状況に応じて衝立を設けている。 改善できる点／改善方法：		
Ⅲ-1-(2) 福祉サービスの提供に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。		
30	Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して福祉サービス選択に必要な情報を積極的に提供している。	㊤・b・c
良い点／工夫されている点： ・理念や基本方針を明記したパンフレット及びホームページを作成し活用している。 ・入園希望者には、見学・体験入園を行い、保護者に取り組みのねらいなどを丁寧に 説明するほか、次年度に向け定期的な体験教室を開催している。		

・入園希望児の発達状況や家族の状況、保護者の不安や悩みを丁寧に聞き取りながら、相談支援専門員からも、サービス手続きや必要に応じて他事業所や医療機関の訓練 などについて情報提供を行っている。 - 理念や基本方針を明記したパンフレット及びホームページを作成し活用している。 ・今年度中に作成および公表が求められている「支援プログラム」について、理念や方針、支援内容を反映して作成・公表し、個別支援計画に繋げていくように進めている。		
改善できる点／改善方法：		
31	Ⅲ-1-(2)-② 福祉サービスの開始・変更にあたり利用者等に わかりやすく説明している。	②・b・c
良い点／工夫されている点： ・入園を希望する保護者が学園を見学する際は、児童発達支援管理責任者が同席し、サービス内容の説明を行う。他のサービスとの併用のための変更の際も、相談支援専門員が自施設に利益誘導することがないよう、保護者の希望に寄り添った相談にあたっている。 ・外国籍の場合は、漢字にルビをふったり、ひらがなにしたり、コドモンの翻訳機能を活用するなどの配慮をしている。 ・サービス開始・変更時の児の様子や保護者の希望などは詳細に記録し、園内回覧で 共有している。 ・変更時は、保護者の意思を尊重している。特に、子どもの立場からみた意見を保護者に丁寧に説明し、対話を通して保護者が選択していけるよう支援している。		
改善できる点／改善方法：		
32	Ⅲ-1-(2)-③ 福祉施設・事業所の変更や家庭への移行等にあ たり福祉サービスの継続性に配慮した対応を行 っている。	②・b・c
良い点／工夫されている点： ・相談支援専門員が自施設に利益誘導することがないよう、保護者の希望に寄り添った相談にあたっている。 ・園児が就学・就園等により退園する際は、保護者の同意を得て、作成したフェイスシートを就学・就園先へ送っている。アフターケアとして、前年度の担任と児童発達支援管理責任者が就学先・就園先を訪問して児の状況を見聞きして、情報交換を行っている。 ・サービスの変更等により、相談支援専門員が替わる際は、保護者の同意も得て、次に担当する相談支援専門員に情報を提供している。 ・卒園後も困ったことがあれば、いつでも相談にのることを伝えており、相談支援専門員が交代した後も、保護者の相談にのったり、ケース会議を開催したりしている。		
改善できる点／改善方法：		

Ⅲ-1-(3) 利用者満足の向上に努めている。		
33	Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	㊟・b・c
良い点／工夫されている点： ・児童発達支援ガイドラインに基づき、年に1回保護者アンケートを実施している。 ・個別支援計画の面談の際、必ず保護者からの要望を確認している。また、保護者が個別懇談を希望する場合は、希望カードを提出するしくみになっている。親子登園や直接送迎の際も、話が聞けるよう心掛けている。 ・4月、3月に開催される親の会総会には、園長と児童発達支援管理責任者が出席している。 ・アンケート結果については、3月の親の会総会で公表するとともに、要望等について項目ごとに回答を作成し説明している。アンケート結果は真摯に受け止め、可能な限り改善を行い、療育に反映させている。 ・今年度からは、利用料の支払いのQRコード決済、登降園管理システムの導入によりアプリでの出欠連絡、登降園時間の打刻管理システム化、バス位置情報の提供等、これまで要望の多かった課題の解決に向け、改善策を講じた。		
改善できる点／改善方法：		
Ⅲ-1-(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。		
34	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	㊟・b・c
良い点／工夫されている点： ・「岐阜市福祉部社会福祉サービス苦情解決の手引き」及び「岐阜市福祉部社会福祉サービスの苦情解決に関する要綱」に基づき責任者、担当者、第三者委員が設置されている。 ・苦情解決の仕組みは、玄関に掲示するとともに、保護者に渡す学園生活のしおりにも掲載している。 ・保護者が要望等を投書する箱も玄関に設置している。 ・日々、クラス担任に頻りに連絡帳や電話で相談が持ちかけられており、迅速に個別面談を行い、保護者の思いを傾聴しながら、こども主体の療育内容を共有し進めているため、実際に苦情という形になることはないが、苦情が持ち込まれた場合には、マニュアルに基づいて対応を行うこととしている。		
改善できる点／改善方法：		
35	Ⅲ-1-(4)-② 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、利用者等に周知している。	㊟・b・c
良い点／工夫されている点： ・保護者に「個別（懇談）希望カード」も配布している。その用紙には、「相談を担当してほしい希望職員」を記載する欄も設け、相談者を選べるようにしている。 ・苦情解決体制について掲示する以外に、管理者、児童発達支援管理責任者、相談		

支援専門員の顔写真を掲示するとともに、「けいこう」にも新任職員の挨拶などを載せて、話しやすい環境づくりに配慮している。 ・児童発達支援管理責任者、相談支援専門員は、積極的に保護者とコミュニケーションを図るよう心掛け、垣根を低くするよう配慮しており、担任には話しづらい話を聞く機会も多いので、相談の際は、相談室または静養室を使用し、ゆっくり話せるように配慮している。		
改善できる点／改善方法：		
36	Ⅲ-1-(4)-③ 利用者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	@・b・c
良い点／工夫されている点： ・担任が受けた保護者からの相談や意見で重要な案件は、まず口頭で係長、児童発達支援管理責任者、管理者に報告している。相談内容は必ず記録に残し、園内で回覧し共有する。 ・相談や意見は真摯に受け止めるとともに、職員の療育に関する考え方や、一人ひとりの子どもの発達にあわせた支援方法について説明を行い、理解をいただく努力も怠らないようにしている。 ・学園のマニュアル等にはない事案については、リーダー会議に諮り検討し結論を出している。すぐに結論を出せない場合には、見通しを説明し了解を得ている。 ・玄関に意見箱を設置、保護者アンケートを実施している。		
改善できる点／改善方法：		
Ⅲ-1-(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。		
37	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	@・b・c
良い点／工夫されている点： ・各項目ごとに異常事案（リスク）個票を作成し、職員用マニュアルとして、職員一人一人に配布している。 ・安全対策委員会を設置し、安全計画やBCP、避難訓練等の各計画の策定や見直しに取り組み、事故防止に取り組んでいる。 ・県の安心・安全メールが学園のメールにも配信されるよう登録がしており、メールを受信したら状況に応じて保護者に一斉メールを送信できる体制を構築している。 ・安心・安全関連の研修として、日本赤十字社によるAED、気道異物除去、心肺蘇生についての研修を受講した。また、薬剤師によるエピペン、ブコラムの使用方法研修を受講した。 ・薬剤師には環境衛生検査も委託している。全国で子どもに関する事故や事件が起きた時は、迅速にマニュアルを見直し、日々の療育の中で起きた事故に結びつく事案はヒヤリハットを作成し、全職員で共有している。 ・毎月地震や火災の避難訓練を行い、年に2回不審者対応訓練も実施している。		

改善できる点／改善方法：		
38	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における利用者の安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	@・b・c
良い点／工夫されている点： ・保健委員会を設置し、「感染対策指針」や「感染症発生時における業務継続計画」を作成し、研修を実施してその内容を職員に周知している。 ・職員マニュアル内に「園児が病気・ケガをした場合の対応について」の項目を設けて、読み合わせや見直しを実施している。 ・「保育所における感染症対策ガイドライン」、「学園生活のしおり P15」、「社会福祉施設におけるノロウイルス集団感染防止対策の手引」等を参考に手洗い・咳エチケットなどと呼びかけている。 ・感染症が発生した場合は、迅速に「保健だより」を発行し、保護者に注意を促している。		
改善できる点／改善方法：		
39	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における利用者の安全確保のための取組を組織的に行っている。	@・b・c
良い点／工夫されている点： ・「自然災害発生時における業務継続計画」および「洪水時の避難確保計画」を作成し、研修を実施して内容を職員に周知している。岐阜市防災計画が定められ状況ごとの職員体制も決められている。 ・非常時の対応については、「学園生活のしおり」にも明記し、保護者へも対応について周知している。 ・マニュアルにこだわることなく、気象状況、防災対策課からの情報、近隣の小中学校や長良特別支援学校の対応状況なども勘案して、園児の安全を最優先に考え決定する。基本的に災害時は登園させない。状況により、学園で園児を預かる事態に備え、毛布、食料を備蓄している。 ・職員の緊急連絡網を整備している。入園時に保護者の連絡先も確認し、連絡先は事務室のわかりやすい所に配置してある。 ・避難訓練は、消防署の協力を得て行っている。園舎は平成 59 年に建築されているため（耐震診断が必要な建築物は昭和 56 年以前の建築物）耐震基準はクリアしているが、定期的に、鉄筋の劣化状況の診断も実施している。 ・R6 年度には、初めて引き渡し訓練を実施し、今後も定期的実施予定である。		
改善できる点／改善方法：		

Ⅲ-2 福祉サービスの質の確保

	第三者評価結果
--	---------

Ⅲ-2-(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		
40	Ⅲ-2-(1)-① 提供する福祉サービスについて標準的な実施方法が文書化され福祉サービスが提供されている。	㊟・b・c
良い点／工夫されている点： ・マニュアルの他に「学園の療育を進めるために」を作成している。 ・職員マニュアルに人権等についての明示がある。 ・それぞれの園児の発達の状況を把握するための会議が定期的に行われており、職員間で認識の統一を図っている。また、ケース検討会も定期的に行われ、よりよい支援方法について検証している。		
改善できる点／改善方法：		
41	Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	㊟・b・c
良い点／工夫されている点： ・標準的な実施方法の記載されている各種マニュアルは年度末や随時見直しを行い、サービスの標準化に取り組んでいる。 ・1年間の取り組みについては、「あゆみ（事業報告）」を作成し、業務を振り返り（Check）、次年度の事業に反映させる（Plan、Do）ようにしている。		
改善できる点／改善方法：		
Ⅲ-2-(2) 適切なアセスメントにより福祉サービス実施計画が策定されている。		
42	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく個別支援計画を適切に策定している。	㊟・b・c
良い点／工夫されている点： ・児童発達支援管理責任者を配置している。 ・個別支援計画の作成は、項目別に園児一人ひとりの現状をアセスメントし、目標を定め支援方法を明示している。必要に応じ、公認心理士が発達検査を実施して、客観的に子どもの発達状況を確認している。 ・学園の相談支援専門員がサービス利用計画を作成する際は、保護者の思いに寄り添ったものにするため、児の発達段階、家庭状況、保護者の願いなども十分に聞き取って、保護者の希望でエールぎふなどの関係機関から情報を得て、ニーズを把握し作成している。その上で、個別支援計画が適切なものであるか検証している。 ・個別支援計画の面談の際は、他のサービス利用状況も考慮して保護者と支援方法を確認し、同意を得ている。 ・支援困難ケースについては、ケース検討会を開催し、全職員で話し合う機会を設け支援を行っている。		
改善できる点／改善方法：		

43	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に個別支援計画の評価・見直しを行っている。	a・b・c
良い点／工夫されている点： ・個別支援計画は春と秋に見直すこととしており、検討会議は各クラス担任全員及び 児童発達支援管理責任者で行っている。 ・作成した計画は管理者決裁後、保護者に渡され面談を行い支援方法について同意を得て支援を行う仕組みになっている。 ・面談記録は、クラス担任、児童発達支援管理責任者、管理者に回覧し共有する。 ・個別支援計画作成中や保護者との面談において急遽計画の変更が必要になる場合も、柔軟に対応する。 ・園児に必要なサービスが十分提供できるよう、日々職員間で意見交換し、質の高い サービス提供に努めている。		
改善できる点／改善方法：		
Ⅲ-2-(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。		
44	Ⅲ-2-(3)-① 利用者に関する福祉サービス実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化している。	a・b・c
良い点／工夫されている点： ・アセスメント、個別支援計画のフォーマットを定めている。 ・個別支援計画には、経過・結果を記載する欄があり、支援の経過・結果を確認することができる。 ・面談記録もフォーマットが決まっており、記録はクラス担任、児童発達支援管理責任者、管理者が目を通し、その都度、気になる点、配慮すべき点などについて情報の共有ができる仕組みになっている。 ・必要に応じて、週に 1 回開催される職員会議で配慮すべき事項、共有化すべき情報 について報告を行う。		
改善できる点／改善方法：		
45	Ⅲ-2-(3)-② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。	a・b・c
良い点／工夫されている点： ・記録の保管・廃棄については、市の文書管理規則に基づいて事務処理を行っている。 ・市の個人情報保護条例・規則等を遵守し、情報漏えい事故には注意を図っている。事故があったときの対応方法は、市（担当課）においてマニュアル化されている。 ・適切な公文書管理のため、文書取扱主任と代行者が設置されている。 ・個人情報保護については、公務員倫理や法令順守研修で説明しており、文書の管理 のみならず、エレベーターやバス内で個人情報に関することは話さない、家族にも 口外しない、電話をしている職員のそばで話さないなど指導をしている。 ・面談や相談記録については、家族の同意を得て職員間で必要な情報を共有してい		

る。 相談内容は、サービス向上の目的以外で情報を利用することはなく、他の保護者に 口外しない。

改善できる点／改善方法：

評価細目の第三者評価結果
(障害者・児福祉サービス版)

A-1 利用者の尊重と権利擁護

A-1-(1) 自己決定の尊重

	第三者評価結果
A① A-1-(1)-① 利用者の自己決定を尊重した個別支援と取組を行っている。	a・b・c
良い点／工夫されている点： ・児童の権利に関する条約及び児童福祉法の基本理念に基づき、児童の最善の利益を優先し、心身ともに健やかに育成されるよう日々の療育を行っている。また、児童の育成の第一義的責任をもつ保護者への丁寧な支援に取り組んでいる。 ・ことばの遅れや特性のある幼児期の子どもの発達力や、発達上のねがいを丁寧に把握しながら、一人ひとりの発達状況にあわせた個別支援計画を作成し、子どもの主体性を引き出す療育を行うよう努めている。 ・職員マニュアルの冒頭に人権に関することを明記し、研修を行いながら、職員一人ひとりが合理的配慮や人権を意識するようにしている。	
改善できる点／改善方法：	

A-1-(2) 権利擁護

	第三者評価結果
A② A-1-(2)-① 利用者の権利擁護に関する取組が徹底されている。	a・b・c
良い点／工夫されている点： ・異常事案（リスク）個票（児童虐待、障害福祉従事者等による障害者虐待）が作成されており、手順等が明確になっている。 ・子どもの権利委員会を設置し、虐待など権利侵害の状態になっている園児の早期発見に努めているが、権利侵害と思われる状況は見受けられていない。身体拘束は行っていない。 ・子どもの権利委員会のアンケートでは、虐待に対して職員の自己チェックに加え、他者のチェック欄もあり、職員同士がお互いに検討し合える体制ができている。 ・日々事前防止に努めており、権利侵害が発生したことはないが、発生した場合は園内の子どもの権利委員会やリーダー会議で検証するとともに、庁内関係機関と迅速に連携を図る。	
改善できる点／改善方法：	

A-2 生活支援

A-2-(1) 支援の基本

A③ A-2-(1)-① 利用者の自律・自立生活のための支援を行っている。	a・b・c
良い点／工夫されている点： ・食事、排泄、着脱等身辺自立は、一人一人の状況に合わせ、始めは一緒にやりながら、できる部分は見守り、徐々に支援を減らす等、保護者と相談し家庭でも同じ方法で取り組んでいる。	

・子ども自身がやってみようと思えるような、大好きな大人の存在や気持ちに寄り添った声かけなど信頼関係の構築に努めている。 ・子どもが意欲をもてる課題をスモールステップで設定し、「がんばったらできた」と子どもが生活の主人公になれるよう、日々の生活を大切にしている。	
改善できる点／改善方法：	
A④ A-2-(1)-② 利用者の心身の状況に応じたコミュニケーション手段の確保と必要な支援を行っている。	㊦・b・c
良い点／工夫されている点： ・園児の状況に応じて、身振り、指さしや絵カードなど言葉以外の方法を使った意思表示（コミュニケーション）が図られるよう工夫している。 ・活動の中で、「〇〇ほしい」、「手伝ってほしい」、「トイレに行きたい」など意思表示（コミュニケーション）を促す場面を作ったり、意思表示ができるまで待つなどの配慮をしている。 ・個別支援計画の項目の中の「人とのかかわり」の項目の欄で、具体的な目標と支援方法を定め、クラス担任の認識・支援方法を統一している。また、園児の気持ちを代弁できるよう、日ター人ひとりに寄り添った丁寧な療育を進めるよう心掛けている。 ・子どもによっては、保護者が代弁者となって職員とともに子どもと関わっている。	
改善できる点／改善方法：	
A⑤ A-2-(1)-③ 利用者の意思を尊重する支援としての相談等を適切に行っている。	㊦・b・c
良い点／工夫されている点： ・子どもの姿をよく見て、子どもの発達上の願いを把握した上で、大人の関わり方を日々検討している。 ・保護者には、「個別希望カード」を配布し、相談や要望がある場合は、担任に提出することとなっている。また、日々のコドモン連絡帳に記載された内容によっては、担任から保護者に声をかけ、事情を聞いたり相談にのる等行っている。 ・親子登園では、子どもの思いや行動の理由を通訳するとともに、関わり方を相談したり、育児負担を労ったりする。その都度支援方法を変更しながら、必要に応じ個別支援計画を修正する。就園や就学等進路については、担任、児童発達支援管理責任者や、相談支援専門員と連携し、関係機関とつながりながら情報提供し相談にに応じている。	
改善できる点／改善方法：	
A⑥ A-2-(1)-④ 個別支援計画にもとづく日中活動と利用支援等を行っている。	㊦・b・c
・子どもの施設であるため、活動は大人の自己満足にならないような療育内容になっているか、絶えず見直しをしている。また保護者の意見を聴取している。 ・子ども視点の療育という観点から、やりたいことを本人が絵カードを使って選択できるなど方法を模索している。一人ひとりの個別支援計画に基づき、それぞれの園児が好きな活動ができるよう配慮している。	
改善できる点／改善方法：	
A⑦ A-2-(1)-⑤ 利用者の障害の状況に応じた適切な支援を行っている。	㊦・b・c
良い点／工夫されている点： ・年度初めに職員の研修計画を立て、数年間ですべての正規・非正規全職員が順に研修に参加し、質の向上を図っている。 ・園児の状況は、週に1回の職員会議で報告し、支援の共有を図っている。また、定	

期的にケース検討会議を開催し、園児に対する支援内容を全職員で検討し、支援方法の見直しや環境整備を行う。 ・毎年、外部から講師を招き助言を受けるとともに、今年是不適切な行動等を継続的に記録し、要因等を予測し、その対応や環境設定についてスーパーバイズを受けている。 ・親子登園児は、保護者間の関係も良好であるよう配慮を欠かさない。
改善できる点／改善方法：

A-2-(2) 日常的な生活支援

	第三者評価結果
A⑧ A-2-(2)-① 個別支援計画にもとづく日常的な生活支援を行っている。	㊦・b・c
良い点／工夫されている点： ・公立保育所と同じ献立を、自園で調理して提供している。給食食材は、できるだけ国産・ノンアレルギーにこだわっている。 ・月に1回給食委員会を開催し、献立ごとの子どもの摂取状況等を確認している。 ・排泄については、一人ひとりの育ちと課題を踏まえ、個別支援計画に基づき支援を行っている。 ・バス送迎を運行し、個々に応じた支援を行う。	
改善できる点／改善方法：	

A-2-(3) 生活環境

	第三者評価結果
A⑨ A-2-(3)-① 利用者の快適性と安心・安全に配慮した生活環境が確保されている。	㊦・b・c
良い点／工夫されている点： ・児童福祉法に基づく指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準に基づき、施設を整備している。 ・けが防止のため園庭を芝生化している。転倒・転落の恐れがある箇所は衝撃軽減のためマットを敷くなどの配慮もしている。 ・トイレについては、職員の目が複数の園児に届くよう扉をなくしているが、プライバシー保護に配慮している。また、トイレにも滑走による転倒防止のため、マットを敷いたり、2階トイレについては、今年度床をクッションフロア化する工事を実施した。 ・1、2階トイレ内の照明をLED化して、トイレ内を明るくするとともに、1階トイレは天井の塗り替え工事を実施した。 ・体調を崩したり、感染症及び疑いのある園児は別の部屋で療育できるよう、静養室がある。 ・毎年実施するアンケートに療育環境に関する項目もあり、保護者の希望を把握している。予算化を伴うものを含め、可能な限り状況を改善している。	
改善できる点／改善方法：	

A-2-(4) 機能訓練・生活訓練

	第三者評価結果
A⑩ A-2-(4)-① 利用者の心身の状況に応じた機能訓練・生活訓練を行っている。	a・b・c

良い点／工夫されている点： 非該当
改善できる点／改善方法：

A-2-（5） 健康管理・医療的な支援

	第三者評価結果
A(11) A-2-（5）-① 利用者の健康状態の把握と体調変化時の迅速な対応等を適切に行っている。	㊦・b・c
良い点／工夫されている点： ・「学園生活のしおり」に健康管理について明記している。園児の健康状態については、排せつ支援、検温の他、保護者からの登降園管理アプリによる連絡からも把握している。 ・嘱託医による健診（内科・歯科年2回、耳鼻科・眼科年1回）を実施している。隣接する、長良医療センターと医療協定を締結し、急病やけがにも対応している。また状況に応じて他の病院へもかけられるよう、近隣の病院の電話番号を事務室に掲示している。 ・職員研修については、日本赤十字社によるAED、気道異物除去、心肺蘇生についての研修を受講した。また、薬剤師によるエピペン、ブコラムの使用法研修を受講した。薬剤師に環境衛生検査を委託している。 ・今年度、各部屋の温・湿度や二酸化炭素濃度がモニタリングできるセンサーを設置した。	
改善できる点／改善方法：	
A(12) A-2-（5）-② 医療的な支援が適切な手順と安全管理体制のもとに提供されている。	㊦・b・c
良い点／工夫されている点： ・園児の病気・ケガについては職員マニュアルを定めている。 ・近隣にある長良医療センターと医療協定を締結しており、急病やけがの際は園児を連れて行き受診させる体制をとっている。 ・「保育所における感染症対策ガイドラインについて」を参考に「保健だより」を作成し、園児が感染症にかかった場合は迅速に配布できるように準備している。 ・異常事案（リスク）個票（インフルエンザの集団発生、園児がけがをした）を作成している。 ・服薬等についても職員マニュアルに定めている。薬は必ず保護者から「薬連絡票」とともに職員に直接渡すこととなっている。 ・食物アレルギー児の対応についても職員マニュアルに定めており、主治医の意見書に基づいて対応をしている。 ・毎月担任、保護者、調理員（栄養士）が、面談により給食とおやつの食材をチェックし、日々は担任、管理者、調理員等複数の目で提供前にチェックしている。基本的には除去食として いるが、アレルギーがない食材で代替えもしている。特におやつについては、代替え品を提供している。 ・ダイアアップ使用やブコラム、エピペン処置について、看護師、薬剤師から定期的に指導を受け、医師と指示書に基づいて場面に応じて対応する体制を整えている。	
改善できる点／改善方法：	

A-2-（6） 社会参加、学習支援

	第三者評価結果
--	---------

A(13) A-2-(6)-① 利用者の希望と意向を尊重した社会参加や学習のための支援を行っている。	a・b・c
良い点／工夫されている点： 非該当	
改善できる点／改善方法：	

A-2-(7) 地域生活への移行と地域生活の支援

	第三者評価結果
A(14) A-2-(7)-① 利用者の希望と意向を尊重した地域生活への移行や地域生活のための支援を行っている。	a・b・c
良い点／工夫されている点： ・保育所、幼稚園への移行や就学先について、保護者学習会を開催したり、保護者同士のフリートークの場を設定している。 ・同年齢集団での体験のため、岐阜市の交流保育を活用している。 ・就園、就学先については、まずは保護者や家族の意向を把握し、必要な情報提供、相談支援を行っている。移行にあたって、つきたい力を保護者と確認しながら、療育を進めるとともに、卒園後の支援についても相談している。 ・市の療育総合判定会議（保育所等の特別な配慮のための会議）の判定委員として、児童発達支援管理責任者が出席し、関係機関と密に連携している。 ・今年度より、インクルーシブ交流活動として、地域の幼稚園等（ながらこどもの森）との交流を継続的に実施し、そこへ通っている子ども達との交流を通して、地域社会とのつながりを深める取組みをしている。	
改善できる点／改善方法：	

A-2-(8) 家族等との連携・交流と家族支援

	第三者評価結果
A(15) A-2-(8)-① 利用者の家族等との連携・交流と家族支援を行っている。	a・b・c
良い点／工夫されている点： ・サービス利用計画作成時に保護者の希望や家庭の状況を確認し、それを踏まえた個別支援計画が作成されている。 ・恵光学園は親子療育を基本としているため、日々の療育を通じて保護者間の交流がある。また、年に3回親子ふれあいデー（内1日はファミリー・フェスティバル）を開催し、父親や祖父母にも療育についての理解を深めてもらうとともに、子どもとの関わり方を学んでもらう機会を設けている。 ・コドモン連絡帳のやりとりを毎日している。体調不良の報告以外に「〇〇ができたよ」等の園児の変化を、その日のうちに、保護者に知らせるようにしている。 ・保護者間の交流については、園児の保護者で構成する「親の会」主催で、総会（2回）、親睦会（1回）が開催されている。 ・園児の体調不良や急変時の家族等への連絡先は、事前に保護者に確認している。連絡先は事務室内のわかるところに置かれている。 ・新入園児・継続児を分けての学習会や就学についての学習会の他、保護者同士のフリートークやクラス学習会も開催されている。 ・「生きる力を家族とともに育てる療育」を理念とし、保護者の療育目標(①こどもとの具体的な遊びを覚える、②子どもとの関わり方を身につける、③子どもの姿を正しくつかむ、④できたことを家族や地域でも実践する、⑤保護者同士の交流を深める)を定め、家族支援を行っている。	
改善できる点／改善方法：	

A-3 発達支援

A-3-（１） 発達支援

	第三者評価結果
A(16) A-3-（１）-① 子どもの障害の状況や発達過程等に応じた発達支援を行っている。	a・b・c
良い点／工夫されている点： ・個別支援計画の作成にあたっては、園児の思いに寄り添ったものにするため、子どもの発達段階、家庭状況、保護者の願いなどを十分に聞き取って、項目ごとに現状把握し、目標を定め支援方法を明示している。 ・個別支援計画作成の際は、児童発達支援管理責任者及びクラス担任間で会議を持ち一人ひとりの園児についての育ちを共有している。 ・支援困難ケースについては、ケース検討会で取り上げるなどして、全職員で話し合う機会を設け支援を行っている。 ・活動や取り組みは、発達に応じて、設定あそびを通してからだ、感覚、手指の動き、人との関わり方などを身につけていく。また、子どもの発達、興味、体力などを考えて他のクラスとグループを組み活動をしている。 ・他の児童発達支援を利用している子どもについては、他の事業所職員が来園され様子をみたり、担任と懇談を行っているほか、学園の職員が保護者の同意を得て、他の事業所の療育を見学し、学園での療育内容を見直すなど連携している。	
改善できる点／改善方法：	

A-4 就労支援

A-4-（１） 就労支援

	第三者評価結果
A(17) A-4-（１）-① 利用者の働く力や可能性を尊重した就労支援を行っている。	a・b・c
良い点／工夫されている点： 非該当	
改善できる点／改善方法：	
A(18) A-4-（１）-② 利用者に応じて適切な仕事内容等となるように取組と配慮を行っている。	a・b・c
良い点／工夫されている点： 非該当	
改善できる点／改善方法：	
A(19) A-4-（１）-③ 職場開拓と就職活動の支援、定着支援等の取組や工夫を行っている。	a・b・c
良い点／工夫されている点： 非該当	
改善できる点／改善方法：	

A-5 県独自項目

A-5-（１） 職員の援助技術の向上

	第三者評価結果
A②① A-5-(1)-① 職員のスキルの段階にあわせて計画的に職員の援助技術の向上に取り組んでいる。	a・b・c
良い点／工夫されている点： ・公立保育所の障がい児担当保育士の、療育実習を受け入れているが、昨年度から職員が、公立保育所で保育実習を開始している。 ・学園主催の療育スキル向上に関する研修を年3回行っている。学園職員だけでなく、岐阜市内の児童発達支援事業所、保育所等にも案内し岐阜市全体の質の向上を目指している。 ・外部機関が開く障害特性、発達、療育についての研修に参加している。 ・年間6回の事例検討や、感染症対策、救命救急に加え、てんかん発作やアレルギーの研修も行っている。	
改善できる点／改善方法：	

A-5-(2) IT技術や知識の修得

	第三者評価結果
A②① A-5-(2)-① 利用者の社会生活に必要となるIT技術（パソコン、インターネット、メールの利用等）や知識の修得に向けた支援をしている。	a・b・c
良い点／工夫されている点： 非該当	
改善できる点／改善方法：	